

とき き ん び
時の記念日

学校のチャイムもテレビやラジオの時報も、私たちに時刻を知らせてくれます。では日本で初めての時報は、どんな「音」で時を告げたのでしょうか。日本初の時報として鳴らされたのは、太鼓や鐘。天智天皇の時代、671年6月10日のことだったと日本書紀に記されています。

671年に使われていたのは漏刻という水時計でしたが、現代では電子や原子などを用いる非常に精密な時計も開発されています。時計とは、時代とともに発達する、最先端技術の結晶でもあるのです。

もっとくわしく！▶

にじゅうし せつ き
二十四節気

みなさんは、右側のカレンダーに「芒種」や「夏至」の文字があるのにお気づきですか？

これらは季節の目印である「二十四節気」。古代中国で成立し、農作業の時季の目安にもなりました。「芒種」は稲や麦など穂の出る作物の種をまく頃、というように、季節に合った名前がつけられています。なお芒とは、稲などの実の先端にある、針のような突起のことです。

さて、二十四節気はどのように定めるのでしょうか。もともとなるのは地球と太陽の位置関係です。まず、地球が太陽のまわりをまわると（＝公転）、地球からは星や太陽の位置が日に日にずれて見えます。そこで、太陽の通り道（黄道）を見定め、基点（春分点）を決め、「太陽が春分点から75度（黄経75度）にきたら芒種」というように、地球から見た太陽の位置で定義します。黄道を24等分して定めた二十四節気は、太陽が黄道上のどこにあるか、地球が公転軌道のどこにあるかも教えてくれるのです。

カレンダーで二十四節気を見かけたら、季節の移り変わりとともに、公転してゆく地球のことも想像してみてください。

【参考・引用文献：「新版 星空のはなし 天文学への招待」河原都夫 著】

